



る。鳥は、ワシ、タヒバリ、ライチョウ、カケス、ハイイロホシガラス、カササギなど。

❖ バンフ国立公園

高峰、氷河、渓谷、そして澄みきった湖に囲まれた二つの世界的な保養地、バンフとレイク・ルイーズを擁するこのカナダ最古の国立公園には、毎年二百万人以上の人々が訪れる。高い所にはシロイワヤギやオオツノヒツジ、森にはビュエマ、ワピチ、シカ、ヘラジカ、そして谷にはコヨーテ、オオヤマネコ、テンなどがたむろする。

❖ エルク・アイランド国立公園

かつてこのアルバータ北部の丘陵地帯で群れをなしていたエルク(ワピチリ大型のシカ)にちなんで名づけられたこの公園は、全体が柵で囲まれ、バッファロー、ヘラジカ、ワピチ、ミュールジカがゆうゆうと草を食べている。ここに住む動物

としては、ほかに、トガリネズミ、アカリス、ホリネズミ、シマリス、ヤマアラシ、イタチ、コヨーテ、ミンク、ビーバーなどがある。

❖ ウッド・バッファロー国立公園

スイスやデンマークよりも大きい、この世界最大(四万五千平方キロ)の公園は、一九二二年、絶滅しかけたウッド・バイソン(バッファロー)を保護するために設けられた。公園開設後、アルバータ州ウエインライトから六千頭のブレイリー・バイソンを運んできて交配させたところ、一八九三年には五百頭に満たなかつたウッド・バイソンが、八千頭余りに増えた。ここはまた、アメリカシロツルの唯一の繁殖地としても知られる。

❖ プリンズ・アルバート国立公園

作家で自然保護主義者のグレイ・アウルが、ビーバーと共に死ぬまでの七年間を過ごしたこの国立公園(サスカチュワン州)は、アナグマやワピチ、灰色オオカミ、シカ、ヘラジカ、クロクマ、バッファロー、オオヤマネコ、スカンク……と野生動物がきわめて多い。鳥も、オオアオサギ、キツツキ、ワタリガラス、ヒメレンジャク、さまざまな水鳥と種類が豊富で、アメリカシロペリカン、ミミヒメウ、セグロカモメの繁殖地にもなっている。

❖ プラスク国立公園

スベリオル湖の北東岸からテイップ・トップ山(標高六三〇メートル)のある

山岳地帯を含むこの公園には、イトシャジン、ハマエンドウなどが咲き乱れ、森林カリアー、ヘラジカ、オオヤマネコ、カウソウ、シカ、テン、ビーバー、オオカミが生息する。アビやアイサが湖岸と島の間を飛び、高い木の上からはタカが獲物を狙い、沼ではエサをついばむサギの姿が見られる。

❖ フアンデイ国立公園

潮差が世界的に大きい場所として知られるフアンデイ湾から奥へ広がる森林地



シロギツネ

帯が、フアンデイ国立公園である。

ユキヒメドリ、ノドジロシトド、ツグミ、ミンサザイなど八十七種の鳥がここで巣を作り、ヘラジカ、アカオオヤマネコ、クロクマ、オジロジカ、アライグマ、カンジキウサギ、ヤマアラシ、ビーバー、アカリスなどが生息する。

❖ ケジムジック国立公園

丘陵地帯に浅い湖や沼地が点在するこの国立公園(ノバ・スコシア州)には、東部カナダとしてはきわめて珍しい両生類、爬虫類、鳥類、植物が多い。特にブランディング・タートル(カメ)、リボン・スネーク(ガーターヘビ)は、大西洋沿岸ではここにしかいないし、北米大陸でははるか西部でしか見られないシロマスがいるのもひとつの謎とされている。

❖ プリンズ・エドワード・アイランド国立公園

砂浜、砂丘、砂州、森、崖が作り出すこの美しい公園には、コガモ、クビワキンクロ(カモ)などの水鳥が住みつき、夏や初秋には、海辺を飛ぶ何種類もの渡り鳥がここで羽を休める。ラステイコ島にはアオサギが巣を作り、砂丘にはハマヒバリやクサチヒメドリが飛び、樹上からは、ハイイロチョウヒが獲物を狙う。地上には、アライグマ、ジャコウネズミ、ミンク、イタチ、シマリスなどが住んでいる。

❖ アウエイトウツク国立公園

面積約二万二千平方キロの公園の大半は、北極圏内に位置し、その四分の一、五千数百平方キロは厚い氷におおわれている。一帯には、地衣ぐらしか生えない。陸上には北極オオカミ、北極キツネ、北極トナカイ、レミング、そして北極クマ、海にはセイウチ、イッカクなどのクジラやアザラシが住み、また険しい崖や沿岸の島には、シロカモメなどさまざまな海鳥が巣を作っている。